

LPO

レッスン プラス ワン

Jan, 2001

22

ホームページ開設!

URL: <http://www.musenet.co.jp/lpo>

LPO編集室：〒174-0063 東京都板橋区前野町3-43-7
〒542-0063 大阪市中央区東平2-2-19

楽譜専門部 ㈱松沢書店内 TEL：03-5970-5917
楽譜専門部 ㈱楽販大阪内 TEL：06-6762-9668



せんせいといっしょにうたってひける

『ピアノランド』シリーズ

きはら りょうこ
樹原涼子

発表会用曲集も仲間入りしました!

『ピアノランド①』（音楽之友社）が出版されたのが今からちょうど10年前、その頃はまだバイエルやメトードローズを使っている人が多く、ぜひ子どもに弾かせたいと思うような『初心者用の優れた楽曲教材』はほとんど出版されていませんでした。

私自身は、ヨーロッパ、アメリカ、ロシアなどの新しい教材を使っただけで指導していましたが、「バイエルで挫折したこの子を、音楽好きにして下さい」という生徒を引き受けたのをきっかけに、「自分が使いたいと思う教材をつくらう!」と思ったのです。

『ピアノランド』の特徴

●「ピアノランド①～⑤」
導入の本というと、単なる譜読みや指練習の課題が並びがちですが、ピアノランドでは「はじめから音楽を」をモットーに、どんなに短い曲でもメロディ、リズム、ハーモニーの美しさを味わえるように連弾曲でスタートします。

●「ピアノランド⑥～⑩」
昔の連弾曲のイメージを越えた、オーケストレーションを想定した曲の作りが、弾く人の心に触れるのでしよう。「ピアノが弾けるようになるための練習曲を弾く」のではなく、「この曲を弾いていると楽しい。弾いているうちに上手になった」という流れが自然にできていくのがピアノランドの特徴です。

●「ピアノランドの新しいテクニク⑪⑫⑬」
3冊を通じて、指先のどの部分を用いて鍵盤に触れるかを「タッチポイント」という言葉で創って説明したほか、ピアノの仕組み、アーティキュレーション、休符の感じ方、ペダルの踏み方、和音をマスターするステップなど、他の本にはない独特のアプローチで、考えて弾く習慣をつけさせることができます。

『ピアノランドを使うポイント』

★二段階導入法……「テクニク⑪」の『ピアノを弾く以前の項目』を充分習得してから『ピアノランド①』を弾き始めると、はじめから美しい手の形で良い音で演奏できるようになります。
★ミュージック・データ……自宅練習・レッスンで上手に利用すると、楽しいのはもちろん、音楽家の財産であるテンポ感が早くから身につく、他のパートまで聴きわかる良い耳が育ちます。

☆実力をつけるには目的と方法を明確に!……漠然と次の曲に進んで生徒をつまづかせてしまいう先生がいます。テクニクの対応レッスンを先行させて、その曲を弾くために必要な考え方やテクニクを身につけてから曲で表現する喜びを教えてください。そうすれば、生徒はなぜそうした方がよいのか理解して、他の曲にも応用できる力をつけながら、楽しんで曲を弾くことができます。

今年には発表会のレパートリー、併用曲集としても使える『ピアノランドコンサート⑭⑮⑯』を発行しました。優しい曲でも聴き応えのあるポリュームで、もちろんデータも(XG, GS)。「テクニク⑪⑫⑬」に対応しているのので、難易度別にソロと連弾が選べること、長い曲でも楽譜が観音開きになるので譜めくりがいらぬことなど、使いやすさを考えました。すでにあちこちの発表会で好評とのことでも嬉しいことです。特に下巻のお話組曲は発表会でのすてきなコーナー作りに役立つと思います。ジャンルにこだわらず音楽を愛し、専門的な力をつけていくようにと作った『ピアノランド』を、多くの先生が上手に使ってくださることを願っています。

◆「ピアノランド」の指導法は、『ピアノランドマスターコース(東京)』、『ピアノランド勉強会(全国各地)』で学ぶことができます。お問い合わせ03-5742-1523 ピアノランドメイト事務局まで

プロフィール



武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを白石百合子氏に、ジャズピアノ・編曲を故八城一夫氏に師事。連弾の手法や歌詞を用い、子供の音楽性と演奏技術を開発する新しいメソッド『ピアノ教育界に新しい提案と実践を続けている。』を公表、ピアノ教育界に新しい提案と実践を続けている。著書に『ピアノランド①⑤』『たのしいテクニク⑪⑫⑬』『ピアノランド⑭⑮⑯』『11カ所から始めるピアノ』『ピアノ・レッスン』『11カ所から始めるピアノ』(CD)、ミュージックデータも発売『バイオリンランド①②』(安部慶子氏と共著)等がある。またゲーム音楽『リングアゲイン』『俺の尻を超えてゆけ』等も手がける歌手としても『ギリシャ神話のように』(ミディ)をはじめとしてコンサート・ライブを重ね、活動の場を広げている。

ピアノの先生に贈る 21世紀へのメッセージ①

新年、そして新世紀がやってきました。少子化、高齢化、学校教育の変化、景気足踏み状態、IT、多発する少年犯罪…… 社会変化著しく、先行きの見えないうちに、読者の皆様も悩みは尽きないとお察しします。

でも、元氣を出していきましょう！

今回は、これまでLPPOにご登場頂きました先生方に、皆様へのメッセージをいただきました。先生方の熱い想いが、どうぞ皆様の心に届きますように！

■中村菊子先生（第7号）執筆

「IT革命を楽しもう！」

北陸で行なったピアノ講座の後、一人の先生が、「これ私のEメールアドレスです。おさらい会にCD-ROM『ピアノレパートリーガイド』からたくさん曲を選びました。…… その様子をホームページにのせてありますから見てくださーい」と言われた。

音楽の世界もいよいよ、IT革命時代に入ったようだ。（ITとは情報通信技術のこと）

私は講座でCD-ROM『ピアノレパートリーガイド』を使う。欲しい情報がすぐ出るからだ。『ショパンのノクターン』の講座の途中で、「世界で初めてピアノの独奏曲としてのノクターンを書いたのは、

アイルランド人のJ.フィールドでした。ショパンは彼の伴奏形を……」と言ってパソコンのマウスをクリックする。……とフィールドの美しいノクターンが会場に響き、譜面と情報がスクリーンに写る。そういえば、去年あたりからレッスン室にパソコンを置いて、生徒にCD-ROMから曲選びをさせている先生が増えてきた。『ピアノレパートリーガイド』というCD-ROMは、たった一枚のソフトに2508曲ものレパートリーが詰まっているので、子供たちは大喜びし、ゲームするように曲を選ぶ。

CD-ROMはパソコンさえあれば簡単に使える情報源。IT革命になれば身近な手がかりの一つではなからうか。（CD-ROM『ピアノレパートリーガイド』はヤマハミニジックメディア製）

■橋本晃一先生（第1号）執筆

私はこれまでに数多くのピアノ教本や曲集を作ってきましたが、常に念頭に置いているのは、今ピアノ教室では何が必要とされているのか、ということ。ピアノ教室はレッスン料によって成り立っているのですから、一種のサービス業といえます。そうだとすれば、お客さんである生徒さんやその親御さんの要望を知り、それに対して提供できるものを明確にすることが必要です。そういうコミュニケーションがなく、ただ一方的に

「教えてあげる」だけの教室は成り立たなくなるでしょう。私が教材を作るときを、ピアノの先生方がレッスンすることを、ともに自分の「職業」と真剣に思うならば、ニーズを知り、それに応えられるよう努力を続けるのは当然、と自戒をこめて考えます。どうぞ、生徒さんとのコミュニケーションを大切に、希望と向上心を持って、新世紀のピアノ・レッスンに取り組んでください。

■新井千音美先生（第1・2号）執筆

「いよいよ21世紀になりましたね。# 21世紀になった」と言っても、特別な実感はありませんが、「21世紀へのメッセージ」を書いて……と頼まれると、改めて「ピアノを習いに来る子ども達や、一緒にいてくる母親の姿」が目に浮かんできます。

●ご褒美のお菓子だけが目当てで、練習をしない子。

●練習はしてくるが、ピアノの由来は、今イチ。「間に合わせ」だけの生徒。

●お丸を買って、次へ進めれば御機嫌なお母さん。

など……。

そこで、提案です。『21世紀のピアノ指導』は、生徒・母親・先生のトライアングルでいきたいと思います。例えば、家庭練習を定着させるのは、先生だけでは目が行き届きません。お母さんだけでは？ 生徒だけでも？

どうすれば良いかは、誌面をお借りして、お話しする機会に、と思っています。

■伊藤仁美先生（第2・20号）執筆

「ピアノレスナーとして」

昔のように、ピアノが憧れの時代は終り、誰でも身近に置けるようになった今日でも、ずっとおけいこを続けて、ピアノを自己表現の手段として弾いている人は、残念ながら少ないのではないのでしょうか。自分が何を表現し、何をメッセージとして伝えたいかという内面が育っていないうちに、ひたすらピアノに向かつて、競争意識だけが一人歩きし、ふとむなしさを感じてやめてしまう人が多いのは、とても寂しい気がします。長い年月のたくさんの体験を通して、人の心の痛みなどが理解できるようになった時、言葉では表現しきれない部分を音楽は語ることができるのです。

幸い、ピアノは楽器の王様と言われるだけあって、一人でもアンサンブルができ、身体的にも楽な姿勢で奏でることができるので、ずっと弾き続けることの素晴らしさと、喜びを分かち合いながらレッスンしていきたいと思えます。

■呉暁先生（第3号・16号）執筆

「コラ、でこ坊主！」なんて言われて、本気になって飛びかかってきたりした男の子（小1）は、今では、すっかり私のやり方になれて、弟（4歳）も一緒に絵本やパズルを出して、遊んだり騒いだりします。このうるさい子たちが、学校や幼稚園では（おとなしい）「いいこ」だということです。ウソですね。だから、ピアノの先生は子供達に本音で接して、のびのびと自己表現するように仕

向けてあげなければ……」と思います。

私のまわりにどんな生徒が増えている先生がいますが、そういう先生方に共通なのは、「譜読みをきちんと教える」と、「先生もピアノを弾くのが好き」という事です。ピアノを弾くのは、心を落ちつけて、本来の自分らしい自分になることです。座禅と同じ……とも言えます。先生もピアノで救われていれば生徒も安心してピアノに向かえるようになるでしょう。先生も生徒と一緒に、ピアノで幸せになれると良いですね。

■大竹紀子先生（第4号）「執筆」

ピアノが日本に紹介され、20世紀には楽器も演奏技術も多大な発展をみました。本来、日本には固有の楽器がないということを考えてと（琴も尺八も外来の楽器です）ピアノもそろそろ日本の楽器としてもよいのかもしれない。そして私も、自己鍛錬、自己表現のみではなく、ピアノを通した社会的役割というものを認識すべき時がきているのではないのでしょうか。

私たちはピアノを通して、パツハから武満まで時の流れを表現することができません。民族の特色や関連性を表現することもできません。近年では、環境音楽や音楽療法など機能的な役割をもつメディアとしての音楽も注目されています。コンピューター音楽も避けて通れないでしょう。音楽を学ぶ人の職業選択の幅も広がっていきます。

今、私たちに必要なことは、知識を深めること、音楽をとらえる視点をひろげることではないでしょうか。ピアノを通して広い世界を若い人たちに示すことが

可能になってきたのです。

■渡辺明子先生（第4号）「執筆」

皆様あげましておめでとうございます。おかげ様で私の主宰する「大人のためのピアノ教室」（東京・大田区）も厳しいご時勢の中でも多くの生徒さんたちに恵まれ、有難いことと思っています。

ところで日々のレッスンで感じる「生徒さんが求めるピアノの先生」とは、「簡単な曲でもステキに弾いて聴かせてくれて」「優しく、でもそれだけでなくきちんと教えてくれて」「元氣と安らぎを与えてくれる」先生だと思っています。

パソコンが生活必需品になる日も間近ですが、ピアノ指導という私たちの仕事はパソコンに取って代わられることのないよう、みんなで頑張りましょう！

■岩瀬洋子先生（第7号）「執筆」

著しい社会変化の中で、ピアノ教師に求められることは、益々多様化すると考えられます。生徒（親）の要望に全て応えられれば最高ですが、これはなかなか難しいことです。

ではどうしたらいいか。答えは「自分（教室）のカラー（特長）を持つこと」そしてそれを磨き、打ち出すことです。そのためにもまず「自身を見直して下さい。自分の長所、短所も含め、音楽的ポジションなど冷静に評価してください。その上で、一番楽しく頑張ることが出来る教師像を見つけ、自分の方向性を決めることです。この「楽しく頑張ることが出来る」ということが大事だと思います。教師が仕事を楽しく努力している姿は

そのまま、レッスンに反映され、当然生徒、親にも伝わります。日々変化する社会を見据えた上で、先生の中に隠れたたなさんの魅力を引き出して、益々ステキなピアノ教師として21世紀を輝いて頂きたいと心より願っております。

■田村智子先生（第7・12号）「執筆」

「21世紀のピアノ教室は、爽やかな風通しの良い環境作りを」

世の中で忙しくない人を見つめるのは大変になってきた。学校と習い事に明け暮れる生徒は、実際の年齢よりずっと老けて見える。ピアノを弾く前に「眠い」「疲れた」をボソツとつぶやく。そんな時、ちよつと気分転換できる音楽を聞かせたり、ほつとできるような話をする……そんな風を吹き込んであげたい。

生徒の内面を見つめられる役目はたくさん氷蒸気、それをふんわり包み込む大きな懐は白い雲、そしてそれらをブラスという方向……太陽へと運ぶ風。その風は、生徒の状況によって激しく強かったり、梅雨の中をじつと耐えるもの、くつろぎの春風を吹きかけるものかもしれない。そんな配慮のできる教師になれたらと思う。生徒だけでなく親との関係も同じだし、自分自身にもあてはまること。そこに音楽があるからできることの大切さをもう一度見つめなおし、音楽の力を借りて、生徒との絆をより深めて新世紀を迎えたい。

■渡辺圭子先生（第9号）「執筆」

「目からウロコ」ってよく聞きますが、

「譜を読む」は全く「目からウロコ」ですネ！……これは「大人のためのピアノ教室」（千葉・松戸市）が毎月行なっている「譜を読む」セミナーに参加した多くの先生方の言葉です。

音楽が弾く人の自由な発想で良いなら、私たちは技術の指導しか出来ません。自分のイメージの表現として演奏するのであれば、一つの曲を「花」と感じても「宇宙」とも捉えても自由です。

でもそれは、聴衆にとって一貫した流れを感じることが不可能で、退屈な曲になるでしょう。聴いている誰をも惹き込む曲にするには、その曲の目的を見つけ、流れを楽譜に忠実に演奏することです。

「先生、『ミ』のために」ってイねえ。……今日のグルーブレッスンの大人の生徒たちの声。小さくゆるれるミから始まり、オクターブで上がるミ、4オクターブ使ってかけ登るミ、最後にはウエーブをつけてうねりながら……この曲が出来た時にはピアノに存在しなかったに違いない高いミにまで昇ってみせる曲、こんなにミにこだわっている曲の題名は「エリーゼのために」。

ベートーヴェンの周囲にはエリーゼという女性は存在しなかったこともはっきりしています。エリーゼの「E」はドイツ音名で明らかにミを表しているのですから、日本語で言うなら「ミ子のために」とでも言いたかったのではないのでしょうか。考えられない高さのミを表現するために、曲がどう発展してミに向かうかを説明すると、読書のようにレッスンが面白く、曲の出来上がりも聴きやすく仕上がるのです。

「譜を読む」は音楽を変える、と思っ

■岡井奈美子先生（第11号）「執筆」

「レッスン室をなごみ空間に」

音楽が持つ癒しの効果が、ますます重要な時代になってきました。私達ピアノ教師には、それぞれの生徒さんがピアノに求める気持ちにキメ細やかに対応できる柔軟性が必要であると実感します。そのためにも、時代のニーズを敏感に察知するアンテナをいつもさまざまな分野に向けていたいです。

毎回のレッスンの中では、生徒さんとの対話を大切に、暖かい気持ちで信頼関係を育てていくことが、音楽的な大きな実りを結ぶことにつながるのではないのでしょうか。

また、レッスン室での雰囲気、生徒さんの精神的なプラス面に作用するように、常にプラス志向の言葉がけを心がけていけば、自然となごやかな気が満ちてくるようになります。

『次のレッスンを待ち遠しい。』生徒さんが、そんな気持ちになつてくれたら本望ですね。

■佐土原知子先生（第13号）「執筆」

「ピアノ指導者から」

「ミュージックコーディネイターへ」

物質文明が行きつくところまで行ってしまった感のある20世紀に替わって、21世紀はより精神的なものが重視される世の中になると、もの本にはありません。今の時代は大人はもとより子供だって忙しい！ だからこそ自分自身の生活に潤いが欲しいのではないのでしょうか。私の

教室では十年以上レッスン継続者が全体の四割以上を占めますが、それは超多忙な生活の中に「楽しみとしての音楽」をうまく取り入れていけるからに他なりません。生活の中で、例えば家事の合間にコーヒを飲むように音楽を聴き、そして自ら奏でられたら……。その時々々の気持ちよくままたピアノを奏でることは、究極の癒しではないのでしょうか。

ピアノの生徒は激減していると言われるますが、「ピアノを楽しみたい」という人は実は多いのです。しかし、今まで通りの「習い事」としての音楽では敷居が高い。ならば教える側がその溝を埋める工夫をするべきでしょう。ただ単に「ピアノを教える」のではなく、「暮らしの中に音楽をコーディネートする」そんな発想の転換が必要かもしれません。これからの新しいピアノ指導につきましては、私のホームページ <http://homepage1.nifty.com/alando/> も参照頂ければ幸いです。

■飯田和子先生（第14号）「執筆・第17号インタビュー」

ひとりの子どもの成長に長い間関わるピアノの先生。他人との関係性が希薄な今の世の中で、その存在の持つ意味は大さきいのです。九年後、小学校から音楽科が姿を消し、総合的表現科へ吸収されるとも云われ、学校教育から社会教育へと大きな変化のうねりが予想されます。

21世紀、ピアノ教師は、生徒のピアノ技能を育てることは勿論ですが、それ以上に、ピアノという楽器を使って、どんな音楽を表現したいのか、「自分の言葉」を持つ子を育てることが問われるのでは

ないのでしょうか。

そしてアンサンブル！ 人と人がつながり、同じ時を共有する楽しさ。その中で、音楽の豊かさを求めての個のキラメキ。ピアノ教室は、子どもから高齢者まで、障害の有る人も無い人も、音楽を愛する人たちが集うことの出来る、街の小さなステーションになれたら素敵です。

■谷口啓子先生（第17号インタビュー）

世紀の節目とは言え、昨日と今日であり、主婦業、兼ピアノ教師の私にとつては忙しい日常に追われ、毎日が過ぎてゆくことに変わりはない。だが、少し距離を置いて振り返ってみると、様々な社会変化に気付く。

レッスンに来る子供達が携帯電話を持つてくる事にも見慣れてしまったが、数年前には考えられなかった事で、大きな社会変化の一つだ。いったいこの先はどうなるのだろう。果たして子供達は、子供らしい発想で遊んだりできるのだろうか？ ちよつと心配になるのは私だけだろうか？

せめてピアノのレッスンの時間には、音楽の世界で無邪気に遊びましようよ、と言いたい。達者に弾く事や、よい子でいる事より、何より感じる心を大切に、メロディーを歌い、ハーモニーの色彩を感じて心豊かになりましようよ……と。心に痛みを感じないあまりに悲惨な事件が多すぎる昨今ゆえ、そんな思いが募るのである。

■中森智佳子先生（第17号インタビュー）

生徒や先生を取り巻く環境が大きく変化しつつある今日、教室に来る子どもた

ちから私たちが求められていることは、音楽を習う、曲が弾ける様になる、それだけでは無くなってきているように思えます。21世紀は「共に生きる時代、心の時代」とよく言われます。音楽する楽しみ、喜びが伝わるレッスン、「音楽っていいなあ」と感じ、会場全体で楽しみを共有できる発表会を考えていきたいと思ひます。

その一方、私たちが音楽で社会に関わり、貢献できる事柄はまだまだ沢山あると思ひます。音楽は人の心に働きかけ、コミュニケーションを豊かにし、円滑にする力を持っています。かつてない高齢化社会をむかえ、更に充実した福祉を目指す日本では、障害者、老人施設などでの音楽によるボランティアも、これからより一層求められていく事でしょう。

音楽を通して社会と人とのコミュニケーションを豊かに、密にしていきたいものです。

■遠藤啓子先生（第15号）「執筆」

21世紀のピアノ教室は、これまで以上に人間と人間の暖かいコミュニケーションの場として重要になると思ひます。いろいろな便利な道具の発明により、生活も音楽も猛烈な勢いで進化しています。そんな中で、アコースティックな昔ながらのピアノの音色は人々に安らぎを与え、心の渇きを癒してくれる大切なものになっていくような気がします。

私たちを取り巻くいろいろなことが変わっても、ピアノというものはそれほど変わらないでしょうし、その変わらないのでしょうか。教える方法や習う人の要求

は変化するかもしれませんが。私自身も常に前進していますし、時代に遅れないよう日々努力しています。しかし、変化の激しい21世紀においてこそ、ピアノはいつまでも変わることのない素晴らしい大切なものであり、それを心を込めて教えるということはいつまでもすばらしい仕事であり続けると思っています。

■加藤久美子(第18号)執筆

「心を開く、21世紀の『どれみ畑』」

ピアノに出会ったばかりの子どもたちと和音カード(『どれみ畑』ドレミ楽譜出版社)を床にバラまき「この魚さん、つかまえて！」(和音を弾く)すると元氣よく飛び回って探します。ハ長調やハ長調イ短調など、和音の転回形も導入期より効果的に楽しく指導できるのも、カードだからなのです。

ひとりひとりに合わせ、繰り返し確実に音楽の力をつけてあげたい。難しいものが難しくなく身につくことができたなら、そんな思いから生まれました。リズム作りから、音当て、ジャンケンポン、並べっこ、パパ抜き、神経衰弱等、活用法はきりがなほ豊富です。

「畑」って、耕せば耕すほど、土が肥えてきます。このカードが子どもたちの心を開き、21世紀の『どれみ畑』にどんな花や実がなるのか楽しみです。カードの持つ可能性を大いに活かし、生徒も先生も楽しめるレッスン作りに役立つことを、これからも願っております。

■大村典子先生(第6号)執筆

「コミュニケーション能力を高めよう!」

少子高齢社会の21世紀を明るく健康的にするために音楽の果たす役割は大きく老若男女、誰にも音楽の楽しさを伝えられる先生こそが、21世紀が望む理想のピアノ教師像と言えます。

私のセミナーを何十回と聴講された先生方から、いまも度々メールやお便りが届きますが、どなたも生徒が増え続けて嬉しい悲鳴の由です。この方々の共通点は、コミュニケーション能力が高く、相手の状態に合わせてられる臨機応変さがあること。

レッスンや発表会を成功させる決め手ともなるコミュニケーションの秘訣を、もつと大勢の先生方にお教えしたいと、私はセミナー活動20周年の昨年、人との上手な付き合い方を綴った「典子のハートフル・コミュニケーション」(音楽之友社)を上梓しました。

今後さらに、ピアノの先生方は明るい社会作りのキーパーソンとして、出番が多くなるでしょう。みなさまのご活躍に私は看護教育の世界からエールを送っております。



……いかがでしたか?

今回の企画は2回の連続企画です。

来月号にも、LPOおなじみの先生方からの、皆様へのメッセージを掲載します。ぜひお楽しみに!

子どもの心を見つめて

◆百人、百とおり。

果物屋さんの店先に、みかんがならんでいます。大きさもちがうし、色も微妙にちがいます。食べてみれば、一個ずつ味もちがうはず。

みかんでさえそうですから、人間の子どもであればなおさらのことです。一人として、同じ子どもともいえません。

いまから、三歳の子も私たちのグループレッスンがはじまるころです。スタイトして、一か月たちました。

まもなく子どもたちが、お母さんといっしょに、レッスン室に入ってくるはずですが、そのようす一つとってみても、子どもが一人ずつ、ちがう個性をもっていることがわかります。

ケンくんは、つないでいたお母さんの手をふりはらいながら、レッスン室に駆け込んできました。そして、そのまま先生のところまで走っていくと、先生に大きな声で言いました。

「ねえ、ねえ、ねえ、ねえ、きょうはなにやるの?」

先生は笑顔で答えました。

「すい〜、おもしろいことよ!」

つぎに、三ボちゃんがお母さんと手をつないで入ってきました。お母さんは部屋のまん中まで三ボちゃんを連れていくつないでいた手を放して、お母さん用の席にもどりました。

三ボちゃんは、お母さんが立たせた場

第一回 江口 寿子

所に、銅像のように固まったままです。先生が、三ボちゃんの顔をのぞき込みながらいました。

「三ボちゃん、がんばろうね!」

「……」

三ボちゃんは、無言です。心まで銅像のように固まっているのです。

つぎに、アツくんが、お母さんの手をしっかりと握りながら入ってきました。

「アツくん、こっちにいらつしや〜い!」

先生が、手まねきしながらいいました。アツくんはイヤイヤをすると、お母さんのスカートに顔を埋めました。

つぎに、マミちゃんがお母さんに抱っこされながら入ってきました。マミちゃんの顔は、まるで接着剤で貼りつけたように、お母さんのセーターにしっかりと貼りついていて離れません。

「マミちゃん、こんにちわ〜!」

先生が声をかけました。それを合図のように、マミちゃんは、「ワーン」と泣きはじめてしまいました。

その時、レッスン室の外から、大きな泣き声があがってきました。たぶん、ユリちゃんの泣き声です。ユリちゃんは、二か月たつのに、まだ一度もレッスン室の中に入れないままなのです。

こんなふうに、子どもたちは一人ずつちがいます。ですから、同じように接しても、つまづいていくがありません。

先生は、百人の子もがいれば、百通りの接し方をしなければなりません。

1月の新刊&おすすめ本

おすすめの音楽書

●ぼくとオペラハウス

アンドレア・ホイヤー 絵・文
宮原峠子 訳

あの世界的ヴァイオリニスト、メニユーインも絶賛した音楽絵本。オペラハウスで仕事をしてたおじいちゃんが、舞台の裏側には何があって、どんな人々が、どんな仕事をしているのか、案内して教えてください。(カワイ 1400円 1/下)

●聞いて、ヴァイオリンの詩

千住真理子 著

デビュー25周年を記念記念しての書。家族との心温まるエピソードから、ホスピスでの演奏活動まで、コンサートだけではうかがい知ることのできない、千住さんの魅力がいっぱい詰まった一冊です。(時事通信社 1600円 発売中)

●声美人になりたいっ！

岡田ルミ 著

髪型や、お肌のお手入れも大切だけれど、“声”も磨いてみませんか？本書では、ナレーターである著者秘伝の“声美人”になる方法を伝授。これであなただけの美人度もぐっとUPするはず！(ヤマハ 1500円 1/下)

* 教本・曲集 *

●美しいピアノ小品集①②

日頃のレッスンでおなじみの曲、おさらい会・発表会で欠かせないレパートリー、バイエル終了〜ソナチネ以降までの幅広いグレード、の3つを選曲のポイントとしました。(松山祐士 ドレミ 各800円 1/上)

●ジャンルを超えたピアノ併用曲集

ピアノが好きになる! ① CD付
導入から初級のピアノ学習者・愛好家が、ピアノに楽しく親しむための曲集。ラヴェル、ギロック、アンドレ・ギャニオンなど、さまざまなジャンルの音楽をピアノスティックな作品にやさしくアレンジ。模範演奏のCDつき。(霞 朋郎 編 全音 2300円 1/下)

●ビティナ・ピアノステップ曲集 第10巻 応用②〜④

「ビティナ・ピアノステップ」のグレードに添ったピアノソロと連弾曲集。(保坂千里 編 全音 1000円 1/下)

●運命・未完成をピアノで 1000円

●新世界・悲愴をピアノで 1000円

●アイネクライネとモーツァルト2大交響曲をピアノで 1200円

●チャイコフスキー3大バレエをピアノで 1200円

これらの名曲をピアノで楽しめるようアレンジ。(水城郁夫 編 共同音楽 1/下)

●ノードフ＝ロビンズ・センター編集(輸入楽譜)

「音楽療法のための小品集」(日本語解説付き)

多くの音楽療法関係者が学んだ、同センター編集による曲集。音楽療法の第一線ではどんな音楽が使われているかを知るには是非!! (ヤマハ 2900円 発売中)

●八調で弾くピアノ名曲集

全曲八調で弾きやすく編曲されているので、バイエル修了程度の演奏レベルで、美しいピアノ名曲が楽しめます。(松山祐士 編 ドレミ 1300円 1/上)

●八調で弾くショパン・ピアノ名曲集

あこがれのショパンの名曲が、八調のやさしいアレンジで楽々弾けちゃいます。(水野 薫 編 ドレミ 1000円 1/上)

●ピアノで弾こう ふるき良き時代 Vol.1

60歳以上の愛好者をターゲットに、懐かしの流行歌、愛好家を中心に編纂。非常に簡易なアレンジ、大きめの符玉/文字、さらに、譜めくりがいらぬなど、様々な工夫が凝らしてあります。(全音 1600円 1/下)

●おとなのためのピアノ小曲集

大人になって初めてピアノを習う方々が、ピアノを弾く楽しみを知り、可能な限りのテクニック向上を図るために、幅広いジャンルから集めた小曲をバイエルからツェルニー30番程度に編曲しました。(橋本晃一 編 ドレミ 800円 1/上)

●おとなのポップス・ピアノ100曲集

“この1曲だけは弾けるようになりたい!”と要望の高い名曲スタンダードと、人気の最新ナンバーをカップリング。全曲バイエル程度のアレンジ。(悠木昭宏 編 ドレミ 2000円 1/下)

《おしらせ》

先月掲載分「ギロックの世界」(全音)出版が2月以降に延期となりました。発売日等決まり次第ご案内いたします。

* ヒット曲&TVテーマ曲 *

●ピアノ弾き語り ヒット曲のすべて〜Everything〜

最新のビッグヒットナンバーをコレクション!
(ジョイン 1800円 1/下)

●ピアノ 20世紀に愛された歌〜演歌・歌謡曲・フォーク〜

歌謡史に残る名曲を。(ジョイン 1600円 1/下)

●ピアノ弾き語り 名作アニメ・ヒット・セレクション

「フランダースの犬」から「とっとこハム太郎」まで。生徒さんと一緒に歌おう!
(ドレミ 1500円 1/中)

●ピアノ弾き語り ジョン・レノン/ベスト

誰もが知ってる“ジョン”のスタンダードナンバーを弾き語りで。(ドレミ 1200円 1/中)

●月刊ピアノ2月号増刊 くつろぎのピアノ

話題の“リラクゼーション・ミュージック”を特集。幅広いジャンルに加え、読み物も充実。(ヤマハ 933円 1/下)

●ピアノ へラヴ・リング・ベスト〜

東芝EMIから発売中の同タイトルCDのマッチング。(シンコー 1700円 1/下)

●洋楽ラブ・バラード名曲集 2000円

●日本のラブ・バラード名曲集 1800円

結婚パーティーなどの演奏にもオススメ。
(ドレミ とともに1/中)